様式１

令和５年度　小林市立小林中学校　自己評価書

４段階評価	４　期待以上　　３　ほぼ期待通り　　２　やや期待を下回る　　１　改善を要する

学校経営ビジョン	「挑戦」「共感」「感謝」の心と「考動」する力を大切にして、『チーム小林中』を合い言葉に、「フットワーク」「ネットワーク」「チームワーク」を徹底して、学校・家庭・地域が一体となって、「知・徳・体・食」の調和のとれた活力ある教育活動を推進することにより、学校教育目標の具現化を図り、信頼される学校づくりを推進する。

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価 取組別	自己評価 総合	結果の考察・分析及び改善策等
知育	【重点目標】 確かな学力の向上とキャリア教育の推進 【目標達成のための手段･具体的な取組】 １　「わかる・できる」を実感させる授業づくりの推進。	○　諸調査結果の分析、思考力・判断力・表現力の育成、全国学力学習状況調査やみやざき学習状況調査の過去問題の活用	○　全国学力学習状況調査やみやざき学習状況調査の分析を行い、教科指導や学年の指導に生かす。 ○　問題の傾向や内容に慣れるよう、過去問題に取り組む。	２．８	２．７	○　今年度は指導教諭が２名配置されたこともあり、小グループでの研究授業や相互の参観授業が増え、授業力向上や授業改善を図ることができた。 ○　タブレット活用率は高まってきているが、個人や教科によって差ができつつある。また、デジタルのドリル教材を今年度から採用し、次年度以降も採用予定であるため、活用率は高まると思われる。 ○　学びたい度は２５％と昨年度より２９ポイント下がった結果となった。キャリア教育や進路指導における常時指導の必要性を感じた。 ○　英検取得率は、23 ％となっており数値目標を上回った。また、漢字検定を含め、受験者は年々増加しており、資格取得意欲は高まっている。 ○　「メディアコントロール」を実施したことで、生徒自身がメディア使用時間を記録するようになり、家庭での生活について見直す機　会になった。さらに、生徒自身に目標を立てさせて取り組ませたことで、目標を達成しようとする意欲を高めることにつながった。
	２　ＩＣＴの活用を意図的・計画的に推進。	○　ＩＣＴ活用 90 ％以上、タブレットを活用した授業の推進	○　ICTを利用した授業を積極的に行う。 ○　タブレット活用の研修を計画的に実施する。 ○　ICT 推進委員会を実施して、具体的な課題の解決に向けた取組を検討する。	２．５		
	３　学ぶ意欲を高めるキャリア教育を推進。	○　学びたい度 65 ％以上、地域人材の積極的活用	○　総合的な学習の時間を計画的に実施しながら、外部人材の活用と体験活動の充実を図る。	２．７		
	４　各種検定の取得を推進。	○　全校生徒の英検４級以上取得率 20 ％以上	○　検定試験の重要性についての啓発を行う。	２．７		
	５　学習環境の整備と学習規律の徹底。	○　立腰・学習週間の定期的実施。 ○　メディアコントロール週間の実施。	○　立腰学習態度コンクールを毎月行い、表彰をすることで立腰に対する意識を高めるとともに、各授業場面での指導を徹底する。 ○　定期テスト期間を利用して「メディアコントロール」を実施する。	２．８		
徳育	【重点目標】 豊かな心の醸成と生徒指導の充実 【目標達成のための手段･具体的な取組】 １　いじめ・不登校対策委員会を中心として関係機関との連携強化、相談支援体制の充実。	○　生活アンケートの実施、Ｑ－Ｕの活用、いじめ撲滅、１００％解消、不登校の解消。	○　いじめ不登校対策委員会を毎週行い、学年会で共通理解を図る。 ○　いじめ等に関するアンケートの実施と教育相談の充実を図る。 ○　７月と１２月にＱ－Ｕ検査を行い、７月の結果から出た対策に基づき、学級経営を行っていく。１２月の結果から効果的な取組を共有する。 ○　不登校の生徒や配慮を要する生徒に対しては担任だけに任せず、関係機関との連携を図りながら組織的に対応する。	２．８	２．９	○　毎週、「いじめ・不登校対策委員会」を行い、いじめや不登校の　解消に組織的に対応している。今年度は社会福祉協議会からも参加をいただき、家庭と連絡が取れるようになったケースもあった。しかし不登校生徒の減少までは至っていないのが現状である。今後も関係機関と連携した対応を行っていきたい。 ○　Ｑ－Ｕ検査における生徒の実態を学年会で検査結果を共有しており、生徒一人一人への声かけ、支援に生かされている。 ○　特別支援委員会を定期的に開催し、情報の共有を図り共通実践に　努めた。 ○　研修を計画的に実施し、共通理解を図りながら道徳教育及び人権　教育の充実に努めた。 ○　生徒会を中心に、学校行事の取組や内容の見直しを図った。そのためか「学校生活アンケート」の結果では、「学校生活に満足している」と回答した生徒が増加傾向にある。 ○　読書量については、１月末までの平均で 29.0 冊と、昨年度より 17.5 ポイント上回っており､目標冊数の 2 倍となる見込みである。 ○　読み聞かせ活動は、計画的に実施することができている。今年度も３月には、３学年向けの読み聞か
	２　特別支援教育の充実と校内支援体制の確立。	○　教育的ニーズの把握、研修会の実施。	○　定期的な校内特別支援委員会を実施し、学級担任からの情報を共有しながら、全職員へ共通理解と共通実践を行う。	２．９		
	３　道徳教育及び人権教育の推進・道徳科授業と研修の充実。	○　人権教育及び道徳教育に関する研修会の実施。	○　人権に関わる情報を発信しがら、生徒及び保護者への啓発活動。	２．８		
	４　生徒の自主・自立を基本にした生徒会、ボランティア活動の活性化。	○　行事の見直しと改善。	○　行事等において、生徒会を中心とした企画運営を推進することで、生徒の自主性や協調性、実践力、自治力を高める。	２．９		

	５　規律ある生活習慣の定着。	○　凡事徹底。	○　道徳の授業や朝の会・帰りの会などすべての教育活動において、規範意識や礼儀作法等の指導を徹底する。	２．８		せを実施する予定である。
	６　読書活動の推進。	○　一人年間１６冊以上。	○　読み聞かせ活動の計画的な実施を図るとともに、利用しやすい図書室の工夫改善を行う。	３．０		

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具 体 的 な 取 組	自己評価 取組別	自己評価 総合	結果の考察・分析及び改善策等
体育	【重点目標】 体力の向上と健康安全の充実 【目標達成のための手段･具体的な取組】 １　「体力向上プラン」の計画的・継続的な実践と部活動との連携による基礎体力の向上。	○　体力テスト全項目県平均以上。	○　体育の授業において基礎体力向上のための運動を実施するとともに、部活動の充実を図る。 ○　自転車登校及び徒歩による自力登校の呼びかけや、５００メートルウォークを推奨し、昼休み時間のボール貸し出しも積極的に行う。	２．７	２．７	○　体育科による体力向上プランの計画的・継続的な取組により生徒の体力向上を図っているが、８項目中２項目だけが平均上回っている。 ○　部活動においては、各種大会で上位の成績を収めている。九州大会や全国大会でも活躍し、表彰される。 ○　虫歯指導集会を学年毎に実施し、虫歯予防の啓発を行った。しか　しながら、虫歯治癒率は１月末で38.1 %で、前年度の同時期と比較して低下している。家庭への啓発を行っていく必要がある。 ○　中等度以上の肥満率は 7.1 %（31 名）である。養護教諭を中心に個別指導に当たっている。 ○　今年度は避難訓練のひとつに「生徒の引渡し訓練」を実施した。保護者の協力を得ることができ、効果的であった。次年度は小学校との合同での実施を予定している。 ○　毎月、安全点検を実施し、危険箇所の修繕に努めている。今年度は学校用務員の方が速やかに対応していただいているため大いに助かっている。
	２　健康教育の推進による健康への意識の高揚と健康管理能力の育成。	○　虫歯治療率７０％以上、肥満傾向８％未満。	○　参観日や学校保健委員会及び家庭教育学級を活用し、家庭への啓発を行う。 ○　学級担任や部活動顧問と連携して、虫歯治療率の向上に努める。	２．７		
	３　安全教育、防災教育等の充実による安全意識の高揚と危険回避能力の育成。	○　交通事故等の撲滅、感染防止意識の高揚。	○　安全点検を計画的に実施する。 ○　各種災害等に応じた避難訓練を実施する。	２．８		
食育	【重点目標】 食育の推進 【目標達成のための手段･具体的な取組】 １　全職員での給食指導によるマナーの育成と食育の推進。	○　朝食抜きの生徒ゼロ、給食残食ゼロ。	○　全職員による給食指導を通して、マナーの育成や残食ゼロを目指した取組を推進する。 ○　食育だよりを計画的に発行する。	３．０	２．９	○　残食は６月の調査では 3.8 %、１１月は 1.7 %であった。６月の調査期間が中体連大会と重なったため残食糧が増えているが、ほぼ毎日ゼロに近い。職員や栄養教諭による指導などで啓発している。 ○　全職員で給食指導を行っている。特に今年度は、「食事のマナー」は栄養技師による各教室での会食や給食時間中の巡回指導などでも啓発している。 ○　「弁当の日」の取組は、年１回ではあるが、学級担任と栄養技師で協力しながら計画的に実施している。各家庭によって取組に差はあるが、親子が触れ合う貴重な時間となっていると感じる。
	２　「弁当の日」の実践による自立と感謝の心の育成。	○　「弁当の日」の充実。	○「弁当の日」の設定・実施、および事前指導・事後指導の充実を図り、食事と栄養に関心をもたせるとともに、感謝や貢献の心を育てる。	２．８		

次年度の方向性についての校長所見	次年度は、これまで以上に、全職員が『チーム小林中』をモットーに、一人一人の生徒を大切に「知・徳・体・食」の調和のとれた成長を目指して、学校・家庭・地域が一体となって様々な教育活動に取り組む。特に、不登校傾向及び不登校生徒の減少に関係機関と連携しながら尽力する。さらには、ＩＣＴ機器を活用した授業改善やキャリア教育・特別支援教育の充実を図っていく。